

山下孫継旧蔵 遺跡発掘調査資料目録

— 岩井堂洞窟遺跡関連資料を中心として —

渡部 猛*

1 はじめに

山下孫継氏の発掘調査に関する諸記録は、氏の没後、山下氏の教え子であった鈴木俊男氏（元羽後町図書館長・元秋田考古学会会長）が遺族から譲り受けて保管していた。それらを今後の考古学の研究に役立ててほしいという意向で、平成29（2017）年1月27日に秋田県立博物館に寄贈された。これらの資料は、主として湯沢市・雄勝郡で発掘した遺跡の現地での調査図面やメモ・報告書の下書き・原稿である。図面の中には泥が付着しているものもあり、その当時現場で使用された資料は貴重である。その他に、発掘や遺物の写真やアルバム・ネガ・乾板・新聞の切り抜きなどがある。資料は主として昭和20年代から昭和50年代のもので、湯沢市・雄勝郡の遺跡発掘の状況がわかる貴重な資料群となっている。本稿は、山下氏のライフワークというべき岩井堂洞窟遺跡を中心にまとめたものである。なお、鏡田遺跡の資料については本誌43号にまとめられている（加藤2018）ので除外する。

2 山下孫継氏と考古学

山下氏は秋田県の高等学校教諭で、湯沢市文化財保護審査委員・日本考古学協会会員であった。

明治42（1909）年に香川県琴平町に生まれ、昭和8（1933）年に早稲田大学文学部史学科を卒業した。昭和25（1950）年に秋田県公立学校教員に採用され、湯沢北高等学校（現湯沢翔北高等学校）の教諭として赴任する。翌昭和26（1951）年・昭和27（1952）年に行われた大湯環状列石の発掘調査への参加を機として考古学に取り組むようになった。

この後山下氏は高校教員をしながら、湯沢市・雄勝郡内の考古遺跡の状況調査を行っていく。山下氏の活動の特色は、高校生を調査補助員として組織し、教育の一環として本格的な発掘調査を行った点にある（後に秋田県南高等学校考古学研究協

議会に発展）。そして、昭和36（1961）年には『湯沢市雄勝郡の埋蔵文化財』（湯沢市教育委員会）を著しその成果を示した。昭和37（1962）年には雄勝町上院内（現湯沢市上院内）で岩井堂洞窟遺跡を再発見し、以来昭和51（1976）年までに発掘調査を9度行い、彼のライフワークともなった。また、昭和40（1965）年に東成瀬村で発見された大型磨製石斧（後に国指定重要文化財・当館蔵）が出土した上捨遺跡を緊急調査をするなど、20カ所以上の遺跡の発掘調査を行った。

山下氏は、昭和56（1981）年に秋田県埋蔵文化財センターが設立される以前に、湯沢市・雄勝郡における考古遺跡を発掘調査し、大きな業績を果たした人物である。

<年譜>

昭和25年・秋田県立湯沢北高等学校へ赴任

昭和26年、昭和27年・大湯環状列石の発掘に参加

昭和27年12月15日～24日・雄勝郡川連町欠上り（現湯沢市川連町）の遺跡包含地発掘

昭和28年・湯沢北高で史学部結成。顧問は山下孫継。

・8月12日～30日雄勝郡川連町の欠上り遺跡発掘（早稲田大学と共同）

昭和29年・5月21～22日湯沢市松岡（現同上）の松岡経塚を斎藤忠氏らと現地調査 ・6月湯沢市松岡の経塚の保存調査（指導：奈良修介） ・12月稲庭町大谷（現湯沢市稲川町）の宝龍台上遺跡を武藤鉄城氏と発掘

昭和30（1955）年・夏雄勝郡皆瀬村川向（現湯沢市皆瀬）で発掘調査（指導：武藤鉄城） ・9月24日～27日湯沢市取上石山（現同上）の遺跡の発掘調査（指導：奈良修介） 昭和31年・10月湯沢市取上石山を発掘調査

昭和36年・4月『湯沢市雄勝郡の埋蔵文化財』刊行

昭和37年・5月2日～6日羽後町足田（現同上）の城神廻り遺跡を発掘 ・6月県内埋蔵文化財一斉調査の際、地元の聞き取りにより雄勝町上院内（現

*秋田県立博物館

- 湯沢市上院内) で岩井堂洞窟遺跡を再発見
 昭和 38 年・7 月 23 日～8 月 10 日羽後町足田(現羽後町足田) 所在遺跡を発掘調査、発掘調査顧問齊藤忠氏
 ・8 月 15 日～20 日岩井堂洞窟を発掘調査(第 1 次)
 ・12 月 31 日『秋田考古学』第 23 号にて雄勝郡雄勝町岩井堂洞窟遺跡発掘調査略報
- 昭和 39 年・8 月 15 日～20 日岩井堂洞窟遺跡発掘調査(第 4 洞穴第 1 次)
- 昭和 40 (1965) 年・4 月 1 日山下孫継、湯沢高等学校へ赴任 社会研究同好会考古班の顧問に就任 ・8 月 1 日～5 日、20 日～24 日岩井堂洞窟遺跡発掘調査(第 3 洞穴第 1 次、第 4 洞穴第 2 次)・11 月 7 日東成瀬村田子内菅生田掬(現東成瀬村田子内上掬、字菅生田掬) を緊急発掘(大型磨製石斧の調査)
 ・12 月 10 日『湯沢市史』刊行。「第一編 先史時代」執筆
- 昭和 41 年・8 月 1 日～10 日雄勝町岩井堂洞窟第 3 洞穴(第 2 次)、第 4 洞穴(第 3 次) 発掘調査
- 昭和 42 年・4 月 16 日 湯沢市八幡字鶴巻(現 同上) で緊急発掘調査 ・8 月 1 日～10 日雄勝町岩井堂洞窟遺跡第 3 洞穴(第 3 次)、第 4 洞穴(第 4 次) 発掘調査
- 昭和 43 年・1 月 20 日北方考古学研究会発足。会長山下孫継。『北方考古』第 1 号刊行 ・3 月 30 日～4 月 1 日湯沢市八幡(現 同上) にある芝目遺跡緊急発掘調査 ・3 月山下孫継 秋田県立湯沢高校退職
 ・7 月 25 日～8 月 3 日雄勝町岩井堂洞窟遺跡第 4 洞穴を発掘調査(第 5 次)
- 昭和 44 年・3 月『岩井堂岩陰遺跡発掘調査報告書』(秋田県文化財調査報告書第 16 集) 刊行 ・4 月 12 日～14 日 雄勝町下院内(現湯沢市下院内) 下馬場遺跡を発掘調査 同日湯沢市岩崎(現 同上) の木津根崎遺跡を発掘調査 ・7 月 10 日『北方考古』第 3 号(柴目遺跡) 刊行 ・7 月 25 日～8 月 3 日雄勝町岩井堂洞窟遺跡第 4 洞穴を発掘調査(第 6 次)
 ・8 月 9 日～11 日稲川町三梨(現湯沢市三梨町) の峠脇遺跡を発掘調査 ・12 月 28 日『北方考古』第 4 号(下馬場遺跡) 刊行
- 昭和 45 年・3 月『岩井堂岩陰遺跡第 4 洞穴発掘調査報告書』(秋田県文化財調査報告書第 21 集) 刊行
 ・4 月 25 日～27 日増田町増田(現横手市増田) の平鹿遺跡を発掘調査 ・4 月 30 日『北方考古』第 5 号(狐崎遺跡) 刊行 ・7 月 27 日～8 月 5 日岩井堂洞窟第 4 洞穴(第 7 次) 発掘調査
- 昭和 46 年・1 月 20 日『北方考古』第 6 号(増田平鹿遺跡) 刊行 ・7 月 25 日～31 日十文字町上鍋倉(現横手市上鍋倉) の宝竜堂遺跡を発掘調査 ・7 月『昭和 45 年度岩井堂岩陰第 4 洞穴第 7 次報告書』(雄勝町教育委員会) 刊行 ・9 月 4 日～5 日湯沢市山田(現 同上) の中屋敷遺跡を発掘調査
- 昭和 47 年・3 月 25 日『北方考古』第 7 号(宝竜堂遺跡) 刊行 ・8 月 4 日～8 日雄勝町上院内(現湯沢市上院内) 外ヶ倉にある外ヶ倉遺跡を発掘調査 ・9 月 25 日『北方考古』第 8 号(中屋敷遺跡) 刊行
- 昭和 48 年・6 月 14 日～29 日湯沢市松岡(現 同上) の鑑田遺跡を緊急発掘調査 ・10 月 25 日『北方考古』(外ヶ倉遺跡) 第 9 号刊行
- 昭和 49 年・3 月『鑑田遺跡発掘調査報告書』(秋田県・湯沢市教育委員会) 刊行 ・8 月 1 日～5 日増田町狙半内(現 横手市狙半内) にある外畑牧場遺跡を発掘調査
- 昭和 50 (1975) 年・4 月 27～29、5 月 3～5 日稲川町東福寺(現湯沢市駒形町東福寺) にある内田遺跡を発掘調査 ・5 月 1 日秋田県立博物館開館。岩井堂洞窟のジオラマをメインの展示として公開 ・6 月 10 日『北方考古』第 10 号(外畑遺跡) 刊行
 ・7 月 29 日～8 月 2 日東成瀬村田子内字荒砥沢(現 同上) の荒砥沢遺跡を発掘調査
- 昭和 51 年・4 月 10 日『北方考古』第 11 号(内田遺跡) 刊行 ・7 月 25 日～8 月 3 日稲川町八面(現湯沢市駒形町八面) の宮の前遺跡発掘調査 ・8 月 1 日～8 月 10 日岩井堂洞窟遺跡第 4 洞穴発掘調査(第 8 次・全体では第 9 次)
- 昭和 52 年・4 月 10 日『北方考古』第 12 号(荒砥沢遺跡) 刊行
- 昭和 53 年・山下孫継 永眠(享年 69)
 ・9 月 18 日 岩井堂洞窟遺跡が国の史跡に指定
- 昭和 54 年・5 月 10 日『岩井堂洞窟 第 4 洞穴第 8 次発掘調査報告書』(雄勝町教育委員会) 刊行

3 山下孫継旧蔵資料の概要

山下氏の関係資料は、岩井堂洞窟遺跡や鑑田遺跡などの遺跡発掘時の調査資料・図面・写真・ネガ・

ガラス乾板・写真アルバム・縄文土器の切り抜きなど多数ある(加藤 2018)。

遺跡の調査資料は、再利用された封筒にまとめて入れられ、それぞれにどこの遺跡かわかるようにタイトルがつけられている。だが、資料が入られてある封筒は、破損劣化が激しい。そのため、新しい封筒にそのまま入れて保管している。

写真アルバムには、岩井堂やその他の遺跡の発掘の様子や出土した遺物を分類した写真が貼り付けられている。だが、表紙や写真が脱落してあるものがあり、注意が必要である。

<凡例>

本目録の記述のルールは以下の通りである。

- ・遺跡名：『秋田県遺跡地図情報』システム(秋田県教育委員会)に表記に従った。
遺跡名の後の市町村名は発掘当時のものである。また、発掘当時の市町村名が不明の場合は現在の住所のみ挙げている。
- ・封筒名：【封】を付けて記述したゴシック体で示したものは実際に封筒に書かれたタイトルである。
- ・資料名：『 』で囲む。
- ・表記：判読不能な文字は●、年号の昭和は「S」とする。

4 岩井堂洞窟遺跡関連資料

岩井堂洞窟遺跡は、湯沢市上院内字岩井堂(旧雄勝郡雄勝町上院内矢込沢国有林地内)にある遺跡で昭和53(1978)年に国の史跡に指定されている。縄文時代・弥生時代・平安時代の遺物が発見されている。岩井堂が国史跡に指定されたのは、山下氏の発掘調査によるものが大きい。ここに昭和38(1963)年から昭和51(1976)年までの発掘調査の資料を掲載する。

(1) 岩井堂 第一洞穴 第二洞穴 調査

【封】岩井堂 第一洞穴 第二洞穴 調査

<調査：S38.8.15～20>

- ① 調査発掘に関わる道具類・人夫代等の経費概算のメモ1枚
- ② 調査発掘に使用する道具類のメモ

- 1枚
- ③『南一号トレンチ(第三号洞くつ前)』の土層についてのメモ2枚
- ④『第四洞(南より二号トレンチ下)』の層序についてのメモ
- ⑤ 土器片の乾拓 14枚
- ⑥『1963.8月15～遺物台帳』B5ノート ※高校生と思われる筆跡多し、一部山下氏の筆跡
- ⑦『トレンチ別 遺物深度表』2綴り各6枚
- ⑧ 岩井堂洞穴の写真8枚
- ⑨ 第一洞穴正面図』原図
- ⑩『第一洞穴平面図』原図
- ⑪『第一洞穴平面図』原図
- ⑫『第二洞穴正面図』原図
- ⑬『第二洞穴平面図』原図
- ⑭『第二洞穴平面図』原図
- ⑮『第一洞穴前トレンチ 第2区』層序青焼き
- ⑯『第一洞穴前 トレンチ第3,4区』層序青焼き
- ⑰『第二洞穴内トレンチ』層序 青焼き
- ⑱『岩井堂岩陰遺跡全図とトレンチ設定地点』トレース
- ⑲『第一洞穴 第3～4区トレンチ』『第一洞穴 第2区トレンチ』トレース
- ⑳『第二洞穴内トレンチ(A1)層序』トレース
- ㉑『(岩井堂岩陰遺跡)第四洞穴断面図』トレース
- ㉒『岩井堂岩陰全図(測図2)』トレース
- ㉓『第一洞穴正面図、平面図』45cm×53cm
- ㉔『第二洞穴正面図、平面図』45cm×32cm ※㉓㉔は油性マーカーで書かれた掲示物
- ㉕『岩井堂洞穴遺跡全体の平面図』写真コピー
- ㉖『第一洞穴 第3～4区 トレンチ』『第一洞穴 第2区トレンチ』写真コピー
- ㉗ 第一洞穴・第二洞穴の様子メモ 2枚
- ㉘ 岩井堂洞穴発掘状況の報告の手紙の下書き ※赤鉛筆で「江坂輝弥先生」との書き込みがあり
- ㉙『秋田県雄勝郡雄勝町上院内八丁岩井堂洞穴遺跡発掘調査概報』下書き原稿1部
- ㉚『秋田県雄勝郡雄勝町上院内八丁岩井堂洞穴遺跡発掘調査概報』謄写版印刷2部
- ㉛『秋田県雄勝郡雄勝町上院内八丁岩井堂洞穴発掘調査に関する件』(文部省文化財保護委員会事務局宛 昭和三十八年報告者奈良修介、執筆人山下孫継・富樫泰時)和文タイプ謄写版1部
- ・写真アルバム「岩井堂 38年」19頁

(2) 岩井堂第四洞穴 第三洞穴 昭41年

【封】岩井堂第四洞穴 第三洞穴 昭41年

<調査：S39～41 混在> ※第4洞(1～3次)第3洞(1～2次)の記録が含まれる。

- ①『1964(昭39)8/16～8/20Aトレンチ』(1/20)

グリッド内遺物出土ドット原図 ②『4 洞 B トレンチ (8/16 ~ 8/20)』(1/20) 層序及び遺物出土ドット原図 ③『第 4 洞 B トレンチ 昭 39』層序及び遺物出土ドット原図 ④『第三洞穴 A トレンチ (1965.8 月 20 ~ 24 日)』(1/20) グリッド内遺物出土ドット原図 ⑤『第 4 洞 A トレンチ (1965.8)』遺物出土ドット原図 ⑥『A トレンチ (9/20 ~ 9/23) 昭 40』遺物出土ドット原図 ⑦『上層黒土層』原図 ⑧『第三洞穴 A トレンチ(1965.8.5 ~ 24 日)』層序及び遺物出土ドット原図 ⑨『第 4 洞穴第 9 層 (佐々木)』他遺物整理表 5 枚 ⑩ 出土遺物分類メモ ⑪『(岩井堂洞窟) 第三洞穴正面図』原図 (1/20) ⑫『(岩井堂洞窟) 第三洞平面図』原図 (1/20) ⑬『(岩井堂洞窟) 第四洞穴正面図』原図 (1/20) ⑭『(岩井堂洞窟) 第四洞平面図』原図 (1/20) ⑮『第 4 洞穴 A トレンチ 黒土層範囲 (早期第一生活面=第五層)』原図 ⑯『第 4 洞穴 A トレンチ層序 (41 年現在)』(1/100) ⑰ 岩井堂の周辺の地図メモ ⑱『平面図 洞穴周辺図』トレース ⑲『第 3 洞穴 A トレンチ層序』『第 3 洞穴平面図』トレース 『第 4 洞穴平面図 (縮尺 1/50)』『第 3 洞穴平面図 (1/50)』原図 ⑳『第 3 洞穴正面図』『第 3 洞穴横断面図』トレース 2 枚 ㉑『第 3 洞穴 A トレンチ縦断面図 (縮尺 1/20)』トレース ㉒『A トレンチの楕円形黒土層 (第三層)』トレース ㉓『A トレンチ平面図 1/20』トレース ㉔『第四洞穴 A トレンチ第 1, 2 区第 7 層炉址 (?) (1/20)』トレース ㉕ (測図 14) 第 4 洞穴 IX 層の黒土層と配石』 ㉖『(測図 8) 第 4 洞穴 A トレンチ縦断面図』トレース ㉗『A トレンチ縦断面図 (縮尺 1/20)』トレース ㉘ 不明トレース図 ㉙『(岩井堂洞窟) 第三洞正面図』 ㉚『(岩井堂洞窟) 第三洞窟平面図』 ㉛『(岩井堂洞窟) 第四洞穴正面図』 ㉜『(岩井堂洞窟) 第四洞平面図』 ※㉙~㉚の図は、油性マーカーで記入。揭示用資料と推測できる。 ㉝『(岩井堂洞窟) 第三洞窟平面図』コピー ㉞『秋田県雄勝町岩井堂岩陰 第 3・4 洞穴』※上部に赤ペンで「(昭 41 年度) 協会年報原稿」と記入。 ㉟『秋田県雄勝町岩井堂岩陰遺跡内第 3 及び第 4 洞穴調査報告書 調査責任者 山下孫継』原稿 14 枚 ※「○文化財保護委員会提出原稿 (本稿) 第 3 次 41 年」と鉛筆で書き込み。

・写真アルバム 「岩井堂 39 年 40 年」 37 頁
 ・写真アルバム 「岩井堂 41 年 42 年」 40 頁

(3) 岩井堂 昭 42 年度 (第 3 及第 4 洞穴)

【封】 岩井堂 昭 42 年度 (第 3 及第 4 洞穴)

<調査: S42.8.1 ~ 10 > 調査主体: 雄勝町教育委員会。

①『岩井堂 自 昭 42.8.1 至 昭 42.8.10』遺物整理帳 B5 判ノート ② 出土遺物個数整理計算メモ ③『破片深度表 (1 ~ 10)』更紙 7 枚 1 綴り ④ グリッド別土器分類整理 書き付けメモ 更紙 2 枚 ⑤『第 3 洞穴 (昭 41.7 月) A トレンチ』出土遺物ドット図 ⑥『第 3 トレンチ増設区 (I)』出土遺物ドット図 ⑦『第 3 トレンチ増設区 (II)』出土遺物ドット図 ⑧『第 3 洞穴拡張トレンチ (第 6.7.8 区) 層序と遺物包含状態』グリッド内出土遺物ドット図 ⑨ 第 11 層黒土層 A トレンチ底面 第 1 区~第 4 区 平面図 ⑩『第四洞穴 A トレンチ縦断面図』トレース ⑪『第 4 洞穴 A トレンチ層序』トレース ⑫『第 4 洞穴 A トレンチ縦断面図』トレース

(4) 岩井堂 43 年

【封】 岩井堂 43 年 <調査: S43.7.25 ~ 8.10 >

調査主体が秋田県教育委員会となり、調査地点も第 4 洞穴 (第 5 次) のみとなっている。

①『岩井堂岩陰遺跡発掘調査の実施について (依頼)』文書 秋田県教育委員長発、昭和 43 年 7 月 5 日付け、山下宛 ② 発掘調査員新規加入依頼の書状 (船木義勝差出、43.7.22 消印、山下宛) ③『昭 39 年上層 4A (第 1 第 2 区) 黒土層』図 ④『第四洞穴第 5 層 5, 6 区縦断面図 1/20 第 5 洞 (II) 縦断面図』 ⑤『岩井堂第 4 洞穴 A トレ第 1,2,5,6 区第 9 層縦断面図 (第 9 層 平面図 II 縦断面図)』 ⑥『第 4A トレンチ北壁層序』図 ⑦『鳶』第 4 洞穴地下埋没洞穴原図 ⑧ 器厚総合整理メモ 7 枚 1 綴り ⑨ 各区・各層ごとの出土片数整理メモ 6 枚 1 綴り ⑩『1968.7 月 25 ~ 8 月 3 日院内岩井堂遺跡 (遺物番号及び深さ)』B5 ノート ⑪ Sketch Book ※山下氏の直筆メモあり ⑫『岩井堂岩陰遺跡平面図 (縮尺 1/300)』トレース ⑬『岩井堂遺跡発掘調査 (第四洞穴)』トレース ⑭『第 4 洞穴 A トレンチ層序』トレース ⑮『岩井堂洞窟遺跡発掘調査 A トレンチ断面図 B トレンチ断面図』

青焼き ⑯『第2洞穴 縦断面図』青焼き ⑰『第2洞 a-a' 断面図』青焼き ⑱『断面図』青焼き ⑲『b-b' 断面図』青焼き ⑳ 秋田県社会教育課からの書簡 ㉑『昭43年度、44年度 岩井堂第4洞穴調査』B5ノート ㉒『岩井堂岩陰遺跡発掘調査の実施について(依頼)』文書(秋田県教育委員長発、昭和44年7月7日付け、山下宛)
・写真アルバム「岩井堂 昭43年 昭44年」67頁

(5) 岩井堂 昭44年

【封】岩井堂 昭44年 <調査：S44.7.25～8.3、9.14、15>第4洞穴第6次発掘 ※昭和43年度の第5次発掘資料が混在。調査主体は秋田県教育委員会・雄勝町教育委員会。

①『第4トレンチ A-I 図(1968.7.26 畠山)』第2～3層 グリッド割り付け図原図 ②『岩井堂第4洞穴 A トレンチ 第5層平面図』グリッド割付図原図 ③『岩井堂第4洞穴 A トレンチ 1,2,5,6区 第9層遺物出土平面図(I)』遺物出土ドット図 縮尺1/20 7月29日 ④『岩井堂第4洞穴 A トレンチ 1,2,5,7区 第9層遺物出土平面図(III)』グリッド内遺物出土ドット図原図(1/20) 7月30日 ⑤『岩井堂第4洞穴 A トレンチ』出土遺物ドット図(1/20) ⑥『岩井堂第4洞穴第11層遺物出土平面図』遺物出土ドット図原図 43年8月1日 ⑦『昭43年までの『第9、11層の総合面積(新旧トレンチ)』グリッド発掘平面図 ⑧『第4洞穴下層発見埋没洞穴』正面図原図 ⑨『第4洞穴 A トレンチ 第9,11層の黒土層面積』平面図原図 ⑩『第四洞 A トレ1,2,5,6区 第9層黒土層 昭42、43 総合』平面図 ⑪『第四洞 A トレ5,6区平面図 1/20 第5層』原図昭和43年7月28日 ⑫『岩井堂第4洞穴 A トレンチ 第7層平面図』平面図原図 ⑬『岩井堂第4洞穴 A トレンチ1,2,5,6区 第9層平面図(II)』遺物出土ドット図原図 昭和43年7月30日 ⑭『岩井堂第4洞穴 A トレンチ第11層平面図』平面図 ⑮『洞穴内東壁ピット』遺物出土ドット図 ⑯『埋没洞穴平面図(1968年測定につき要再調) 縦断面図横断面図』 ⑰『第4洞穴前面層序』図 ⑱『岩井堂岩陰遺跡発掘調査打合せ会について』(秋田県教育委員会社会教育課課長、昭和44年6月10日付、山下宛)、『岩井堂岩陰遺跡発掘調

査打合せ会 日時：昭和44年6月20日』青焼き(秋田県社会教育課差出 山下宛) ⑲『昭43年度』発掘道具リストメモ ※「昭44年修正分」の記入あり ⑳『岩井堂第四洞穴内(CTrench) 遺物台帳 S44.8.2～』B5ノート ㉑『遺物台帳(岩井堂岩陰第4洞穴1969年度 A トレンチ)』B5ノート ㉒『グリッド毎の遺物集計整理メモ ㉓『A5, 9, 10, 1314区平面図 1969.8.2 縮尺1/20』遺物出土ドット図原図 ㉔『1969.9.14 第4洞穴 9層 C トレンチ』『第4洞穴 C トレンチ1/20 S44.8.3』遺物出土ドット図原図 ㉕『1/20 第4洞穴 11層』遺物出土ドット図原図 ㉖ C トレンチ 9区から16区までのグリッド内遺物出土平面図ドット図原図 ㉗『69.9.15 4A-9 11層』第4洞穴 C トレンチ 第2区～第11層平面図原図 ㉘『第4岩陰 旧 Trench Section S44.9.15 1/20』 ㉙『壁正面図』原図 ㉚埋没洞穴平面図 縦断面図平面図原図 ㉛第9層第11層 縦断面図原図 ㉜『秋田県岩井堂岩陰第4洞穴発掘調査報告書 秋田県教育委員会 雄勝町教育委員会』原稿 ※秋田県文化財調査報告書第16集の原稿「44年 控」と記入 写真の脱落多い ㉝昭和45年度岩井堂岩陰第4洞穴第7次調査報告書用 発掘遺物写真 5枚 ※脱落多い

(6) 昭45年 岩井堂 第4洞穴

【封】昭45年 岩井堂 第4洞穴 <調査：S45.7.27～8.5、9.13～15>第4洞穴第7次発掘 前年度までの資料も混在 調査主体：雄勝町教育委員会

①『岩井堂岩陰遺跡 平面図』青焼き ②『第4洞穴 A トレンチ(前半) 遺物台帳 C トレンチ(後半)』B5ノート ③ トレンチ別・グリッド別土器片整理メモ6枚 ④ 土器片乾拓9枚 ⑤『岩井堂岩陰第4洞穴前面及び地下洞穴平面図』 ⑥『洞内部平面図原図 S45.8.2 雨天』 ⑦『拡張トレンチ第9～16区) 平面図1969.8.1(1～8区) 1969.7.26 8.1』遺物出土ドット図 ⑧『第1～8区平面図』遺物出土ドット図 ⑨『第9～16区平面図』出土遺物ドット図 ⑩『第四洞 A トレンチ北壁の層序 昭40(7層まで) 昭43(9、11層)』層序及び遺物出土ドット原図 ⑪『第四洞 A トレンチの(左小洞)南壁層序』層序及び遺物出土ドット

ト原図 ⑫『A15～11区西壁層序』『A13～14区北壁層序』『Aトレンチ縦断面図 南壁(A1～3区)』
⑬『第4洞穴地下埋没洞穴内層序』 ⑭『(新グリッド南壁(旧グリッド層序))原図』 ⑮『(新トレンチ)昭45年9月 1/100 地下洞穴内部層序』 ⑯原稿の下書き 4枚 ※赤字で「(文化財保護委へ提出した報告書には記載していないもの)」と記入 ⑰『岩井堂岩陰第4洞穴 第7次調査』原稿 ※「昭46年2月文化財保護委提出(45年度発掘分) 控」と記入

⑱『岩井堂岩陰遺跡と発掘調査のあらまし 雄勝町教育委員会』6部 ※「山下先生 70部」と書かれた用紙と一緒に ⑲ 発掘状況写真 8枚
・写真アルバム『昭45 岩井堂』26頁(うち6頁分剥落)

(7) 昭51 岩井堂第9次

【封】昭51 岩井堂第9次 <調査: S51.8.1～10>

※第4洞穴(第8次)の資料 岩井堂洞窟遺跡の最後の発掘調査 調査主体: 雄勝町教育委員会

①『夏季発掘調査実施要項』 ②『院内岩井堂稲川宮の前発掘調査参加者名簿』 県南高等学校考古学研究協議会 ※湯沢高校・湯沢北高校・増田高校の生徒名簿。5班に分けられ、学校名・学年・住所・電話番号と発掘場所とその日程と115名の名前が記載。山下氏の毎日の作業人員の計算メモあり。

③『LEVEL BOOK』B6変型判 ④『被写体台帳』B5ノート ⑤『出土量調べ(土器)』B5判原稿用紙3枚 ⑥『出土量(石器)』B5原稿用紙3枚 ⑦『第4洞穴Aトレンチ土器片出土量』他3枚 ⑧『昭和52年度岩井堂発掘調査用器具と●●●』 ⑨『第12区東壁断面図』原図 ⑩第4洞穴トレンチ平面図及び第9層～第13層出土土器片写真 ※脱落多い ⑪『岩井堂岩陰遺跡と発掘のあらまし』下書き ⑫『岩井堂岩陰遺跡と発掘のあらまし』原稿 ⑬『岩井堂岩陰遺跡と発掘のあらまし雄勝町教育委員会』印刷物

(8) 岩井堂洞穴 講演用図面 講演用原稿

【封】岩井堂洞穴 講演用図面 講演用原稿

②～⑨までは講演の下書きの原稿で、多くは更紙に書かれてある。書かれた年代は、岩井堂関連のものは昭和38年頃から昭和45年頃のものだと推測でき

る。また、多くは推敲のあとが見られ、講演のために入念な準備をしていたことが見て取れる。⑩～⑰は油性マーカーで書かれた掲示資料である。講演会時に使用したものと推測される。

①『昭和45年3月(7月)と鉛筆で訂正) 秋田県文化財調査報告岩井堂岩陰遺跡第4洞穴発掘調査報告書第21集 秋田県教育委員会 雄勝町教育委員会』 ②『洞穴追跡と新石器時代の編年について』B4更紙3枚 ③『考古学とは? 発掘調査とは?』 ④『(講演用) 岩井堂岩陰遺跡について』B4原稿用紙7枚 ⑤『講演用』岩井堂遺跡の発掘調査結果についての講演原稿 B4更紙11枚 ⑥『(講演)』岩井堂の土器文様についての原稿 B4更紙4枚 ⑦『岩井堂第4洞穴の早期遺物とその問題点(スライド説明)』B4更紙7枚 ⑧『大昔の湯沢 スライド説明講演』B4更紙12枚 ⑨『(講演用) 幻の雄勝城』B4更紙8枚 ⑩『先史時代年代表』110cm×78cm ⑪『遺跡全図』78cm×110cm ⑫『第一洞穴 断面図』55cm×78cm ⑬『第一洞穴前トレンチ第二区』78cm×110cm ⑭『第一トレンチ第3、4区』55cm×118cm ⑮『第4洞穴層序』78cm×110cm ⑯『岩井堂第4洞穴の遺物出土層』78cm×110cm

(9) 岩井堂岩陰関係原稿 山下

これは表紙と裏表紙がボール紙で作られ、背には上記の文字が書かれ原稿が挟まれている。多くは原稿用紙で保存されており、一部は更紙に書かれている。昭和38年の第1次調査から昭和51年までの第9次調査(第4洞穴としては第8次調査)までの原稿が保存されている。

①『秋田県雄勝町上院内岩井堂岩陰遺跡調査概報(第一、二洞穴草稿)』14枚 ②「秋田県雄勝郡雄勝町上院内八丁岩井堂洞穴発掘調査に関する件」(文部省文化財保護委員会事務局宛 昭和三十八年)10枚 ③『秋田考古学協会送り原稿(各洞穴試掘段階) 岩井堂岩陰遺跡』原稿用紙13枚 ※①～③は1963(昭和38)年の岩井堂の発掘調査(第1次)の報告書 ④『(第一次) 秋田県雄勝町岩井堂第四洞穴発掘調査報告』26枚 ⑤『山内先生訂正分 秋田県雄勝郡雄勝町 岩井堂第四洞穴発掘調査報告 山下孫継』22枚 ※鉛筆での添削や書き込みあり。

山内清男のものと思われる。⑥『39年 雄勝郡雄勝町上院内岩井堂第4洞穴の発掘調査(第一次)』22枚 ※④～⑥は昭和39年の第4洞穴の第1次発掘調査報告書 ⑦『(洞穴調査会用) 第一次 秋田県雄勝町岩井堂岩陰遺跡第四洞穴調査概要』9枚 ※昭和39年と昭和40年の発掘調査 ⑧『40年(第二次) 秋田県雄勝町岩井堂岩陰遺跡第四洞穴発掘調査報告 調査担当者山下孫継』24枚⑨『(第七層まで総括『日本の洞穴遺跡』原稿) 岩井堂岩陰遺跡』20枚 ⑩『(文化財保護委員会提出分のオリジナル) 秋田県雄勝町岩井堂岩陰遺跡 第3及び第4洞穴発掘調査報告書(41年)』26枚 ⑪『(文化財保護委員会提出分の仮稿) 秋田県雄勝町岩井堂岩陰遺跡内 第3及び第4洞穴調査報告書』16枚 ⑫『秋田県雄勝町 岩井堂岩陰遺跡(草稿) 秋田県雄勝町教育委員会刊』105枚 ※昭和38年から昭和42年をまとめた報告書だが発行されず ⑬『昭和42年度分報告書(文化財保護委員会宛) 秋田県岩井堂岩陰遺跡 第三及び第四洞穴調査報告書』20枚 ⑭『考古学ジャーナル原稿 1968.2.24 岩井堂岩陰(秋田県) 第四洞穴の早期遺物』22枚 ⑮『岩井堂岩陰遺跡 第四洞穴発掘調査報告書 昭43年度文化財保護委員会 提出分原稿』38枚 ⑯『(魁原稿)(秋田県主要遺跡) 岩井堂岩陰遺跡について』13枚 ⑰『(昭和49年度遺跡資料調査) 岩井堂岩陰遺跡調査報告書』9枚 ⑱『岩井堂岩陰第4洞穴第8次発掘報告書』18枚 ⑲『岩井堂岩陰遺跡調査報告書』59枚 ※「入院まで書いていた原稿」と記入 ⑳『岩井堂 文献集』※更紙12枚に、書名・論文名が277記入 ㉑ 尖底土器測図コピー2枚

5 教育・研究体制関係資料

山下氏は先述したが、高校生を調査補助員として遺跡の発掘調査を行いつつ考古学への関心意欲を育てていっている。ほとんどの遺跡で高校生が発掘調査に関わっているが、ここではその様子がわかる主要な資料を掲載する。

(1) 欠上り遺跡 (川連町字欠上り [現 湯沢市川連町字欠上り])

【封】 久保欠上り関係 <調査: S28.8.12～30> 昭和28年に川連町の欠上り遺跡を早稲田大学考古学研究

室と一緒に発掘調査を行っているが、その前年から日本史選択の湯沢北高生と山下氏が13度調査を行っている遺跡である。山下氏が高校生と一緒に発掘調査を行った初期の資料となる。発掘の様子は45～52頁に山下氏が、55～56頁に史学部の活動の様子を生徒が書いている。

①『わか竹』湯沢北高創立35周年記念誌

(2) 岩手県巡検関係

【封】 岩手県 昭和34年頃、生徒を引率して岩手県への遺跡巡りの巡検を挙行。厳美町・中尊寺・湯田方面を見学したときの写真と資料。

①『〔附録〕 湯田村川尻館遺跡写真と解説』

② 年賀状 差出人 一関市厳美町祭時 祭時分校 鈴木胤人 ③ 山下孫継宛て封書 差出人一関市厳美公民館 ④『湯田村の社会教育1958』 ⑤『湯田村 1959 村政要覧』 ⑥ 写真 17枚

(3) 男鹿市巡検関係

【封】 男鹿海岸洞窟

昭和39年9月22日に湯沢北高校では男鹿半島へ巡検に出かけている。山下氏はその巡検期間中に男鹿の洞窟を考古学の見地から調査している。

①『男鹿半島 地理・地学巡検 湯沢北高等学校』 謄写版冊子 ② 角間崎-志藤沢間の勾配図 ③ 男鹿半島調査控えメモ ④『南磯海岸洞穴調査書』 青焼き及び男鹿教育委員会の手紙 ⑤『男鹿半島 門前賀茂間の海岸洞穴調査所見 山下孫継』 ⑥ 新聞の切り抜き2枚 他

(4) 高校生クラブ活動 1

【封】 高校生クラブ活動 ここにある資料は、湯沢高校の社会科同好会で使用されたものである。

① クリップノート ※昭和40年度、昭和41年度の湯沢高校社会科同好会考古班の活動記録ノート。会員名簿・活動記録・写真の他、岩井堂発掘の記事がスクラップされている。考古学の基礎がのB4版の謄写印刷の綴りあり。 ②『縄文土器型式綴』 ③ 土器 ※②③は鉛筆やペンで描かれた手書きの土器・土偶・石器のスケッチ綴り。 ④『湯沢高校』 ※表紙に赤のボールペンで「湯沢高校」と書かれたB4版の謄写版刷りの24枚綴り。「秋田県南高等学校考古学研究協議会会則」「発掘

の目的と意義」「遺跡の研究順序」「縄文式土器編年表」「文様の種類」「湯沢・雄勝地方における縄文後期の生活と文化」「湯沢・雄勝地区の縄文文明及び弥生文化」等がまとめられている。

⑤『昭和43年度 社会科研究発表会プログラム』

⑥『(大館鳳鳴高校) 縄文時代前期 奥羽北半の土器群』 ⑦ 土器形式特徴綴り ⑧『ながれ 第2号 1968 秋田県立湯沢高等学校社会科研究同好会(地理・考古・社会)』 ⑨『ながれ 第3号 1968 秋田県立湯沢高等学校社会科研究同好会(地理・考古・社会)』 ※「社会科研究同好会」の1年間の研究内容をまとめた冊子 ⑩ メモ1枚 ⑪『高校考研協規約(山下案)』 ※「秋田県南高等学校考古学研究協議会」の会則の原案 ⑫『秋田県南高等学校考古学研究協議会会則』 ※高校生の原案メモ ⑬『秋田県南高等学校考古学研究協議会会則』 ⑭『秋田県南高等学校考古学研究協議会会則』 ※⑬と⑭はバージョンが異なる。 ※上記の協議会は湯沢高校・湯沢北高校・増田高校の3校で結成された。

⑮ 謄写版印刷 綴り ⑯『秋田県立湯沢高等学校収第1052号 秋田大学教育学部社会科研究発表会のお知らせ』 ⑰『考古学研究における一般的知識 鈴木俊男』 謄写版印刷 8頁 ※本資料群を寄贈した鈴木氏が高校生時に執筆したテキスト

(5) 高校生クラブ活動 2

【封】 高校生クラブ活動 この封筒には青文字で『高校生クラブ活動』と書かれてあり、前掲のものとは別のものである。これらは、高校生が学習教材として使用したものである。

①『考古学研究における一般的知識 鈴木俊男』 ※前項のものと同じ ②『秋田県雄勝郡皆瀬村寄合畑出土』 ③『皆瀬字貝沼100番地』 ※②③は方眼紙に書かれた実物大図

④ 土器文様シート ※トレーシングペーパーに土器の文様を描いたものをB4用紙に貼付。1枚は稲庭町小沢・宝龍台・早坂・東成瀬村大羽場と大湯から出土した土器片の一部の文様を比較するように貼付。もう1枚はB4用紙を縦に2枚つなげた用紙で大湯の植物モチーフ文と貝沼・若畑・岩手県磐井川沿岸から出土した土器片の文様を比較するように貼付。 ⑤ 土器文様カード(山田・山田中)

⑥ 土器文様カード(皆瀬) ⑦ 土器文様カード(岩手巖美) ⑧ 土器文様カード(8cm×12cm) ⑨ 土器文様カード(9.5cm×13.5cm) ⑩ 土器文様カード(12.5cm×18cm) ※⑤～⑩は合計88枚ある。大きさは8cm×12cmであり、それぞれに茶・赤・青の縁取りがされ、裏面には「直線8」「突2」「流7」といった文様の分類と「大洞B-C段階」「大洞C1の未完型」のように土器形式が書き込まれている。4隅に黒ラシャ紙から剥がした跡がついてある。これら3種は掲示物として利用されたものと推測される。 他

(6) 外畑牧場遺跡 (増田町狙半内字外畑 [現横手市狙半内字地内])

【封】 増田町外畑遺跡 ※内側に東成瀬村の「荒砥沢遺跡」の封筒が重なっており、外畑遺跡と荒砥沢遺跡の資料が混在している。また、発掘合宿の要項が2種類存在し合宿場所は増田と東成瀬となっており、昭和50年の荒砥沢の発掘報告書の一部も混在している。加えて、両遺跡の統計を一緒にしている。このことは、山下氏が町村域が異なる両遺跡を一つの遺跡として捉えていたことを推測できる。 <昭和49.8.1～5>『北方考古』第10号(外畑遺跡)、『北方考古』第12号(荒砥沢遺跡)に報告書。

①『東成瀬村全図』(1/25000) 昭和46年6月発行 ②『秋田県南高等学校考古学研究協議会夏季合同合宿』要項及び班分け名簿 ③ 保護者向け発掘合宿の案内及び承諾書 ④ 外畑牧場出土土器属性集計表 ⑤ 発掘調査用道具準備メモ ⑥『秋田県南高等学校考古学研究協議会名簿(昭和49年度)』90名 ⑦『秋田県南高等学校考古学研究協議会合同合宿』要項及び班分け名簿 ※昭和49年のもの ⑧ 層序図 ⑨ 外畑遺跡B地点トレンチ配置図 ⑩ 外畑遺跡B地点エレベーション図 ⑪ 外畑・荒砥沢遺跡における統計的調査表 ⑫『外畑遺跡発掘調査報告書』原稿 ⑬ 荒砥沢遺跡発掘調査報告書 部分下書き 他 ・写真アルバム『平鹿郡 外畑遺跡』

(7) 内田遺跡 (稲川町字東福寺張山 [現湯沢市駒形町字東福寺張山])

【封】 内田 <調査：S50.4.27～29、5.3～5> 『北方考古』第11号(内田遺跡)に報告書。

- ① グリッド配置図 ② 発掘調査用具メモ
- ③ 遺物整理要領メモ ※「高考研会長高橋秀竹君へ」の書き込みあり。「高考研」は、「秋田県南高等学校考古学研究協議会」の略。土器の洗浄や注記、統計処理についての説明が記述。
- ④ 遺物整理表ひな形 ⑤ 東福寺内田ピット土層調査結果メモ及び遺物出土状況地図 ⑥ 内田遺跡トレンチ平面図並びに遺物遺構ドット図 ⑦ トレンチ土層断面図
- ⑧ 遺物台帳 ⑨ 出土遺物整理表3枚 ⑩『東福寺とその歴史を語る』増田高校 謄写冊子 他

(8) 秋の宮川連遺跡 (現 湯沢市役内字川連)

【封】秋の宮川連 <調査：不明>

模造紙に油性マーカーで書かれた高校生が作成したと思われる揭示用資料がある。ただ、セロハンテープで貼り付けた部分は劣化して剥離している。昭和43年6月23日、30日に発掘調査をしているが、この資料群の『秋ノ宮川連遺跡位置図』の地名に昭和の合併昭和30年以前の「秋ノ宮村」「小野村」という地名が書かれているため、この時の資料だとは断定できない。

- ① トレンチ配置図及び層序図 原図 ② 出土遺物記録ノート ③『秋ノ宮川連遺跡位置図』 ④ 秋ノ宮川連遺跡出土遺物整理表3枚 ⑤土器形式図4枚

6 遺跡発掘資料

山下氏は、岩井堂以外の遺跡も20カ所以上発掘調査を行っている。それらの資料群を掲載する。なお、写真アルバム・ネガアルバムは、複数の遺跡にまたがっているものは、割愛している。

(1) 取上石山(広沢山)遺跡 (湯沢市取上石山 [現 同上])

【封】取上石山 <調査：S30.9.24～27(別説10.1～3)、S31.10.6～8>

- ① 遺跡断面図 ② 遺跡平面図 ③ 第一回、第二回発掘報告書原稿 他

(2) 土沢Ⅰ遺跡 (湯沢市山田字南土沢 [現 同上])

【封】山田土沢 <調査：S36(月日不明)>

- ① 陳情書(昭和35年) ② トレンチ内土倉状況メモ ③『土沢遺跡調査略図』『遺物発見の経過』下書き『(山田)土沢第1トレンチ実測図』

【封】土沢Ⅱ次 <調査：年月日不明>

- ① 層序原図 ②『雄平地区大規模圃場整備事業現況平面図』青焼き 油性マーカーで書き込み

(3) 足田遺跡 (羽後町足田 [現 同上])

【封】雄勝城関係 <調査：S38.7.23～8.10>

- ①『深澤多市述 雄勝城址考』(復刻版)
- ②『羽後町足田所在遺跡の緊急発掘調査の実施について(依頼)』秋田県教育長差出 昭和38年7月16日付 山下宛『羽後町足田所在遺跡緊急発掘調査実施要項』 ③『城神廻り付近平面図』『城神廻り遺跡竪穴住居址実測図』『A1～Cトレンチ拡張部カメラ実測図』等青焼き ④ 皆瀬川流域の土器・石器等出土の調査報告の葉書(増田町茂木久栄氏差出 33.9.1 消印 山下孫継宛)湯沢市・雄勝郡・平鹿郡の遺跡の出土遺物のメモ等12枚 遺跡地名カード1枚 ※『湯沢市雄勝郡の埋蔵文化財』の資料関連と思われる ⑤『秋田県雄勝郡羽後町西馬音内字五把出山7番地の発掘調査に関する件』(昭和38年9月付 報告者 豊島昂 文部省文化財保護委員会事務局長宛) ⑥ 雄勝城や足田遺跡発掘に関する新聞切り抜き5枚 他

(4) 鷲ヶ沢 (湯沢市字鷲ヶ沢山 [現 同上])

【封】鷲ヶ沢 <調査：S40.4.24、25>

通称「下町裏山」で湯沢高校生が発見。『湯沢市史』には、弥生時代の遺物包含地であると記述。『秋田県遺跡地図情報』システムには遺跡として取り上げなし。

- ①『湯沢市鷲ヶ沢遺物包含地層序と下層遺物の出土状況(Aトレンチ)』図 ②『Aトレンチ下層遺物分布状況図』 ③『湯沢市鷲ヶ沢遺物包含地Aトレンチ従断面図』 ④『鷲ヶ沢』※遺跡包含地出土遺物リスト

(5) 上掬遺跡 (東成瀬村田子内字菅生田掬 [現 東成瀬村田子内字上掬、字菅生田掬])

【封】菅生田掬 <調査：S40.11.7> 発掘された大型磨製石斧は国指定の重要文化財(当館蔵)。

- ①『東成瀬村田子内字菅生田掬 磨切石斧出土地点の新農道状況(平面図1/20)』原図・コピー2枚
- ② 写真※石斧と土器同じもの複数 ③『雄勝郡東成瀬村田子内字菅生田掬遺物出土地点緊急発掘調査

報告書』原稿 他
・ネガアルバム 他

(6) 岩屋堂洞穴遺跡 (田沢湖町岡崎字院内 [現 仙北市田沢湖岡崎字院内])

【封】神代村院内岩屋堂 <調査：S41.6.9 >

「神代村院内岩屋堂」と書かれていたものを訂正。神代村院内(現仙北市田沢湖神代)には「岩屋堂洞穴」が存在しており、『全県』という写真アルバムに「田沢岩屋堂」とメモが書かれてある。山下氏は「岩屋堂」と認識していたのにもかかわらず、「岩井堂」と書いたのは、武藤氏の『岩井堂洞窟報告書』にならったためと推測できる。

- ① 武藤鉄城『岩井堂洞窟発掘報告(抄)』
- ② 『仙北郡神代村岩井堂洞穴再調査第1次報告』原稿・下書き 他

(7) 鶴巻遺跡 (湯沢市八幡字鶴巻 [現 同上])

【封】鶴巻遺跡 <調査：S42.4.16 >

- ① 遺物出土ドット図原図 ② 遺物記録帳
- ③ 『秋田県湯沢市八幡鶴巻遺物包含地発掘調査報』原稿 ④ 調査報告書下書き更紙7枚 他

(8) 柴目遺跡 (湯沢市八幡字柴目 [現 同上])

【封】芝目発掘<調査：S43.3.30～4.1>「秋田県南考古学研究協議会」の名が、調査報告書に現れる最初の遺跡。

- ① 遺物記録帳1冊 ② A・Bトレンチ層序原図
- ③ 『湯沢市柴目遺跡発掘調査報告書』原稿 他

(9) 下馬場遺跡 (雄勝町下院内字下馬場 [現 湯沢市下院内字下馬場])

【封】(小白岩)下馬場遺跡 <調査：S44.4.12～14、4.19～21>『北方考古』第4号(下馬場遺跡)に報告書。

- ① 遺物記録帳2冊 ② グリッド遺物出土ドット図
- ③ トレンチ層序図 ④ 『秋田県雄勝町下馬場遺跡発掘調査報告 秋田県雄勝町教育委員会』原稿・下書き

(10) 木津根崎 I, II 遺跡 (湯沢市岩崎字狐崎 [現 同上])

【封】S44第2次狐崎 <調査：S44～S46> 封筒の中に第1次～3次などの4つ封筒があり、それぞれの年代が混在。『北方考古』第5号(狐崎遺跡)に報告書。

- ① 遺物記録帳5冊 ② 木津根崎トレンチ土器出土地点図2種 ③ E・F・GJ・K トレンチ遺物出土ドット図 ④ Eトレンチ層序図 ⑤ 『狐塚報告書の基礎資料』31枚 ⑥ トレンチ断面図4種 ⑦ 狐塚報告書の下書き 他
- ・写真アルバム『湯沢市(狐崎1)』

(11) 峠脇遺跡 (稲川町三梨字宮田峠脇 [現 湯沢市三梨町字宮田峠脇])

【封】稲川町宮田遺跡 <調査：S44.8.9～11 >

- ① A・Bトレンチグリッド内遺物発掘ドット図
- ② AトレンチBトレンチ層序図 ③ 遺物記録帳2冊 ④ 遺物整理表2枚及び手紙(遠藤博通) ⑤ 『稲川町 峠脇遺物包含地発掘調査報告書』

(12) 平鹿遺跡 (増田町増田字平鹿 [現 横手市増田字平鹿])

【封】増田平鹿遺跡 <調査：S45.4.25～27 >

『北方考古』第6号(増田平鹿遺跡)に報告書。

- ① 遺物記録帳5冊 ② 出土土器属性別集計表
- ③ Aトレンチ東壁層序

(13) 宝竜堂遺跡 (十文字町上鍋倉字宝竜 [現 横手市上鍋倉字宝竜])

【封】宝竜堂 <調査：S46.7.25～31 >

『北方考古』第7号(宝竜堂遺跡)に報告書。

- ① 『今木神社遺跡トレンチ配置図』 ② A・Bトレンチ内遺物出土ドット図 ③ Aトレンチ・Bトレンチ層序原図 ④ 十文字町・宝竜堂遺跡(昭46.7.27～8.2発掘)出土遺物統計 ⑤ 北方考古第7号宝竜堂遺跡発掘調査書注文書3通 ⑥ 遺物記録帳 他

(14) 中屋敷遺跡 (湯沢市山田字中屋敷 [現 同上])

【封】中屋敷遺跡 <調査：S46.9.4、5 >

『北方考古』第8号(中屋敷遺跡)に報告書。

- ① 『遺物台帳』ノート ② トレンチ平面図原図(1/20) ③ Aトレンチ西壁層序図(1/20) ④ 『中屋敷遺跡発掘調査報告書』下書き・原稿コピー
- ⑤ 写真処理剤請求書 ⑥ 中屋敷遺跡発掘調査報告書注文書3枚 他

(15) 鍬柄遺跡 (湯沢市山田字鍬柄 [現 同上])

【封】山田鍬柄遺跡 <調査：S46(月日不明)>。

- ① 『鍬柄遺跡貯蔵庫』※層序図と平面図

(16) 外ヶ倉遺跡 (雄勝町上院内字外ヶ倉 [現 湯沢市上院内字外ヶ倉])

【封】外ヶ倉遺跡 <調査:S47.8.4～8> 『北方考古』第9号(外ヶ倉遺跡)に報告書。

- ①『遺物台帳』2冊 ②A・B・Cトレンチ層序図
③報告書原稿 部分 ④写真処理剤請求書・領収書 他

(17) 長倉遺跡 (雄勝町上院内字長倉 [現 湯沢市上院内字長倉])

【封】上院内長倉 <調査:S47> 湯沢北校史学部差出、47.9.12付の封書に整理票。

- ①長倉遺跡出土遺物整理表 2枚

(18) 外畑牧場遺跡 (増田町狙半内字外畑 [現 横手市狙半内]) **荒砥沢遺跡** (東成瀬村田子内字荒砥沢 [現 同上])

【封】外畑・荒砥沢 <調査:外畑牧場 S49.8.1～5、荒砥沢 S50.7.29～8.2> 2つの遺跡がまとめられているのは、5-(6)前述。『北方考古』第10号(外畑遺跡)『北方考古』第12号(荒砥沢遺跡)に報告書。

- ①外畑遺跡トレンチ平面図原図 ②『荒砥沢遺跡トレンチ平面図』 ③外畑遺跡トレンチ位置地図

(19) 五里台遺跡 (現 東成瀬村椿川字五里台)

【封】五里台 <調査日不明> ※用具メモの裏面に「四十七年産米」の文字。S47以降と推定。

- ①グリッド平面図 ②『五里台用具』メモ ③『五里台遺物台帳』メモ ④『五里発掘調査遺物統計』
⑤遺物写真3枚 他

(20) 松岡経塚遺跡 (湯沢市松岡字聖ヶ沢 [現 同上])

【封】松岡(山田)経塚 山下氏が文字を解読したという新聞記事の切り抜き。S29頃と推定。

- ①『山田構え森経塚調査資料』 ②『松岡経塚平面図』 ③『松岡経塚南北断面図』 他

(21) 桜坂遺跡 (皆瀬村字桜坂 [現 湯沢市皆瀬字桜坂]) **白沢遺跡** (皆瀬村字白沢 [現 湯沢市皆瀬字白沢])

【封】若畑関係 <発掘年月日不明> 『皆瀬村史』には両遺跡とも所在は「皆瀬村川向」。『湯沢市雄勝郡の埋蔵文化財』(S36年)に掲載。

- ①皆瀬村川向地形図 ②『D地点組石』図 ③『皆瀬村白沢遺跡』平面図 ④『皆瀬村川向桜坂遺跡』石器スケッチ 他

白沢遺跡 (皆瀬村字白沢 [現 湯沢市皆瀬字白沢])

【封】白沢遺跡 <調査:不明> ※資料に「30.11.15」の数字。S30と推定。

- ⑤『皆瀬村川向字白沢遺跡発掘平面図』⑥『皆瀬村川向白沢 発掘E地点縦穴住居跡平面図』

(22) 東山寺墓地上遺跡 (湯沢市字西金堀沢 [現 同上])

【封】東山寺 <調査:不明> 『湯沢市雄勝郡の埋蔵文化財』(昭和36年発行)に掲載。

- ①石器スケッチカード 63枚 ※四隅に黒ラシャ紙の跡。高校生が掲示物に使用したと思われる。

(23) 荒町遺跡 (雄勝町上院内字荒町 [現 湯沢市上院内])

【封】院内荒町 <調査日不明> ※写真アルバムに高校生の発掘の様子の写真。S40代と推定。

- ①トレンチ配置図 ②出土土器属性別集計表
・写真アルバム『雄勝町』※同じ名のアルバムあり

(24) 欠上り遺跡 (現 湯沢市川連町字欠上り)

【封】欠上り○増高 <調査:不明> 稲川町の欠上り遺跡の増田高校分の資料か。

- ①出土土器属性別集計表 4枚

(25) キリシタン墓地

【封】キリシタン墓地 <調査地・調査年月日不明>

- ①A・Bケールン 遺構平面図

7 その他の調査・研究活動

資料群には、たくさんの新聞の切り抜きやスクラップブック3冊が残されてある。切り抜きは封筒に入れられているもの、ビニール袋に入れられているものがあり、スクラップブックの中の1冊は切り抜きを挟んだだけになっているものもある。

また、自身で土器文様や形式などを研究した資料が残されてある。この資料は2つの大きな封筒に入れられてまとめられている。また、袋に入れられていないものもある。

(1) 新聞切り抜き

【封】考古学関係新聞切抜 この封筒には、新聞の切り抜き等が中に入れられている。種類は、切り抜きが68枚、手書きの地図4枚、メモ1枚、葉書1通となっている。切り抜きは、旧石器時代・秋田県の古代史・考古学に関するものが主となっている。山下氏の関心の傾向を覗うことができる。

・花泉遺跡関係切り抜き4枚 ・三ヶ日人関係切り抜き4枚 ・『秋田むかしむかし』連載切り抜き26枚 ・『人間の歴史』連載切り抜き9枚 ・『日本古代史のナゾ』連載切り抜き8枚 ・手書きの地図

スクラップブックやビニール袋に未整理の切り抜きがあり、その数は封筒に入っているものよりも多い。その中の主なものを掲載する。

・『秋田むかしむかし』17枚 ・『日本の近代百年史』11枚 ・『秋田のキリシタン』19枚 ・『北の王者秋田清原氏』11枚 ・『日本化粧の歩み』12枚
・海外の遺跡発掘の切り抜き（マヤ・アンデス・アフガニスタン等） ・秋田県内の遺跡のニュース（秋田城・大湯等） ・消えゆくマタギ 5枚
・山下氏が取材された新聞記事 他

(2) 秋田城関係

【封】秋田城関係

①『秋田城址報告』 ②『古代秋田の地形を語る（特に秋田城を中心として）秋田大学名誉教授 大橋良一』2枚 ③『秋田城文字瓦聚成（墨書並びにへら書）払田柵出土陶』 ④土器墨書銘聚成 昭和卅一年九月二十三日 奈良修介』 ⑤秋田城調査の新聞切り抜き4枚 他

(3) 湯沢市文化財審議会

【封】湯沢市文化財審議会

山下氏は、湯沢市の文化財保護審議会に出席している。昭和52年から53年までの資料である。

①『湯沢市文化財審議会次第（52.10.26）』他申請書2枚・五輪塔解説1枚 ②『湯沢市文化財保護審議会次第（53.2.24）』 ③『昭和53年度 芸術文化関係の主なる事業と予算』 ④『松岡経塚』概要青焼き ⑤『五輪塔について』概要 謄写版・青焼き・原稿 ⑥『湯沢市の板樋』原稿 ⑦講演要旨 ⑧先史時代郷土史講演資料 ⑨写真3枚、ネガ 他

(4) 分布調査

【封】分布調査

山下氏は昭和49（1974）年には、秋田県より遺跡分布調査員に任命されており、湯沢市と雄勝郡の遺跡や包含地を6月から10月まで調査している。そのときの資料である。

①遺跡分布調査資料の整理について 秋田県教育長 文化課課長差出 遺跡分布調査員山下孫継宛
②『埋蔵文化財包蔵地調査カード作成上の注意事項』冊子 ③湯沢市雄勝郡遺跡地名表 ④『遺跡分布調査日誌 山下孫継』※山下氏の手作りの日誌 ⑤『昭和49年度 秋田県遺跡分布調査日誌』他

(5) 研究資料

【封】研究資料、統計調査

山下氏は、土器や石器の器形について遺跡の遺物の比較や分類・数などを表に書きながらその特徴を明らかにしようとしている。例を挙げると、土器の地域毎（北海道・東北・関東・中部）の器形と文様の変化を表にしたり、2つの遺跡から出土した土器の器形の多寡を比較しながら考察を加えたりしている。膨大な時間を費やして考古学に取り組んでいたことがわかる資料となっている。

①『円筒式型式分類』『大洞式型式分類』『大木式安行式その他分類』 ②川連久保欠上り遺跡土器意匠文様統計 ③北秋田郡志藤沢遺跡土器意匠文様統計 皆瀬白沢遺跡土器衣装文様統計
④『（弥生式遺跡）（南秋田郡琴浜村角間崎字角間崎字志藤沢）の遺物と（続縄文遺跡）（雄勝郡皆瀬村白沢）の遺物の比較』 ⑤『水無瀬川水系発掘調査書報告 湯沢北高等学校史学部』謄写版冊子 他

(6) 奈良史跡パンフレット類

【封】奈良関係

修学旅行引率で使用した資料だと推測される。

8 おわりに

これらは、昭和20年代から昭和50年代の秋田県の考古学の様子を写す生き証人ともいえる一次資料群である。山下氏の研究の方向性や発掘の手法、高校生への教育的指導、湯沢市・雄勝郡の遺跡発掘の状況が見えてくるものである。そして、

これらの資料群を分析することによって、埋蔵文化財センター設立（昭和56年・1981年）以前の秋田の考古学を明らかにする重要な手がかりだと考える。

その重要性を象徴するのが、昭和50（1975）年の秋田県立博物館開館時に岩井堂洞窟遺跡のジオラマが展示されたことである。このことは、山下氏と高校生たちによる詳細な記録が高く評価されていたことを意味し、後の国の史跡指定（昭和53年・1978年）につながったものである。すなわち本資料群は、博物館草創期の展示や史跡指定の学術評価を支えたデータであると言えよう。

一方で、写真やネガ・乾板・切り抜きなどについては、未だ整理の途上にある。これらは当時の発掘状況を視覚的に裏付ける重要な資料であるため、今後さらなる調査・整理が望まれる。本目録が、山下孫継氏の足跡をたどるだけでなく、地域の遺跡研究における基礎資料として活用されることを期待したい。

【参考文献・引用文献】

- 1 『湯沢・雄勝の人々（下）』 佐々木千代治編集
湯沢市昔を語る会発行 昭和55年3月15日 455-456頁
- 2 『横手市史 資料編 考古』 横手市 平成19年3月31日 31-32頁
- 3 『岩井堂岩陰遺跡発掘調査報告書』（秋田県文化財調査報告書第16集）昭和44年3月 秋田県教育委員会雄勝町教育委員会 1頁
- 4 『秋田県考古学研究史 調査・発掘調査年表』 富樫泰時編著 書肆えん発行 平成23（2011）年1月11日
- 5 『北方考古』第1号 昭和43年1月20日 北方考古学研究会
- 6 『北方考古』第2号（掬上遺跡）発行日不明 北方考古学研究会
- 7 『北方考古』第3号（柴目遺跡） 昭和44年7月10日 北方考古学研究会
- 8 『北方考古』第4号（下馬場遺跡） 昭和44年12月28日 北方考古学研究会
- 9 『北方考古』第5号（狐崎遺跡） 昭和45年4月30日 北方考古学研究会
- 10 『北方考古』第6号（増田平鹿遺跡） 昭和46年1月20日 北方考古学研究会
- 11 『北方考古』第7号（宝竜堂遺跡） 昭和47年1月25日 北方考古学研究会
- 12 『北方考古』第8号（中屋敷遺跡） 昭和47年9月25日 北方考古学研究会
- 13 『北方考古』第9号（外ヶ倉遺跡） 昭和48年10月25日 北方考古学研究会
- 14 『北方考古』第10号（外畑遺跡） 昭和50年6月10日 北方考古学研究会
- 15 『北方考古』第11号（内田遺跡） 昭和51年4月10日 北方考古学研究会
- 16 『北方考古』第12号（荒砥沢遺跡） 昭和52年4月10日 北方考古学研究会
- 17 『湯澤市史』 昭和40年12月10日 湯沢市教育委員会
- 18 『稲川町史』 昭和59年3月31日 稲川町教育委員会
- 19 『皆瀬村史』 平成5年3月31日 皆瀬村教育委員会
- 20 『増田町史』 平成9年6月20日 増田町教育委員会
- 21 『東成瀬郷土誌』 平成3年3月31日 東成瀬村教育委員会
- 22 『東成瀬郷土誌』 令和4年3月31日 東成瀬村教育委員会
- 23 『湯沢市雄勝郡の埋蔵文化財』 昭和36年4月15日 湯沢市教育委員会
- 24 『秋田県史 考古編』 昭和35年3月31日 秋田県
- 25 『秋田県史 第一巻 古代 中世編』 昭和37年3月31日 秋田県
- 26 『秋田県遺跡地図情報』 システム（Webサイト・データベース） 秋田県教育委員会
- 27 『秋田県立博物館 研究報告第43号』 21-31頁 『鑑田遺跡出土木製遺物の年代と予察 - 2017年度調査の概要報告-』 平成29（2018）年3月